

4月における麦類の病害の発生状況は以下のとおりです。

巡回調査(21 地点)は4月6～10 日, 24～26 日に実施。

○ 縞萎縮病

- ・4月の調査では, 巡回調査 21 地点のうち2地点において, オオムギ縞萎縮病の発生が確認されました(図1～3)。
- ・縞萎縮病は土壌伝染性のウイルス病であり, 農機具等に付着した汚染土の移動などで拡散します。発生ほ場, 発生が疑わしいほ場で使用した農機具等を洗浄せずに, 他のほ場で使用するのはいけません。
- ・発病ほ場では, 同じ麦種の連作は避けましょう。
- ・オオムギ縞萎縮ウイルスは小麦には感染しないので, 発病予防には麦種転換も有効です。ただし, 縞萎縮病発病ほ場で, 両方の麦に感染するムギ類萎縮ウイルスが混発している場合がありますので, 注意してください。



図 1 縞萎縮病の発生状況(4月上旬)

写真中央部が発病株。周囲の健全株と比べ生育が劣る。坪状の発生が, 機械作業等で年々畦方向に拡大するのが特徴。



図 2 縞萎縮病の発病株(4月上旬)

下葉は黄化又は枯死, 上葉は淡緑色のカスリ状模様。



図 3 縞萎縮病の発生状況(4月下旬)

軽度の場合, 生育はやや回復するが, 健全株よりは劣る。

○ うどんこ病, さび病類

- ・4月の調査では, 発生は確認されませんでした。